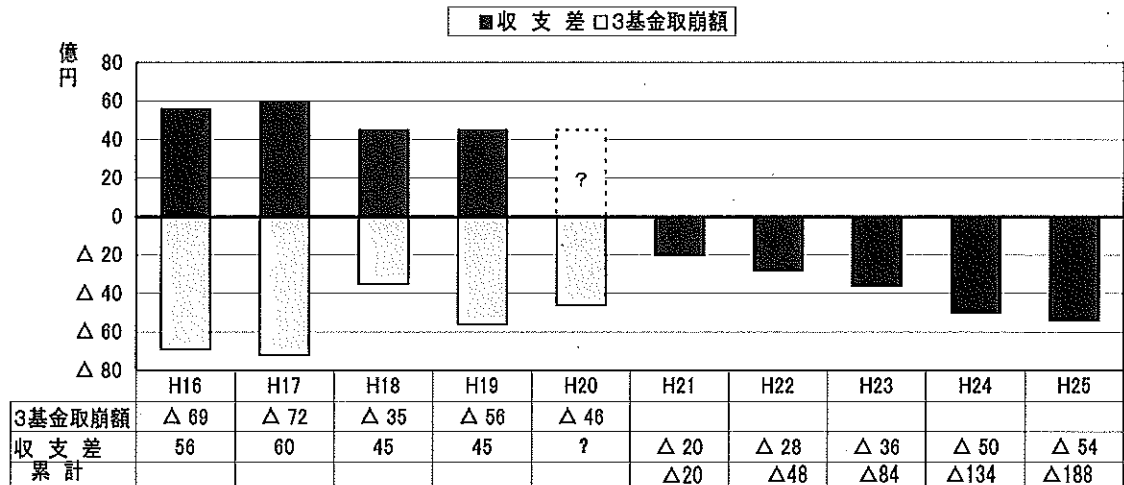


4 今後の収支見通し

(1) 5年間の収支見込み

【収支は5年間で188億円の不足】

- ・平成21年度の決算見込み等を元に今後5年間（平成21～25年度）の市の財政の見通しを試算しました。
- ・試算にあたっては、大規模事業等の重点化、進捗調整等をしないで集計し、また、財源調整のための基金を取崩さないとして見込んだものです。
- ・これによる今後5年間の収支不足は188億円になると見込んでいます。



過去の「岡山市の財政状況」における収支差の経過

(単位：億円)

| 年 度 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | 合計 |
|------------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-----|-------|
| 第7版 (H17) | △ 33 | △ 128 | △ 102 | △ 75 | △ 63 | | | | | △ 401 |
| 第8版 (H18) | | △ 45 | △ 59 | △ 51 | △ 52 | △ 30 | | | | △ 237 |
| 第9版 (H19) | | | △ 59 | △ 72 | △ 49 | △ 33 | △ 18 | | | △ 231 |
| 第10版 (H20) | | | | △ 40 | △ 30 | △ 43 | △ 50 | △ 47 | | △ 210 |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|--|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 歳入 | | | | | 2,472 | 2,392 | 2,410 | 2,408 | 2,428 | |
| 歳出 | | | | | 2,492 | 2,420 | 2,446 | 2,458 | 2,482 | |
| 収支差 (H21) | | | | | △ 20 | △ 28 | △ 36 | △ 50 | △ 54 | △ 188 |

今回の収支見通しは、昨年度作成した5年間の見通しに比べて、

- ・歳入では、平成25年度までで、景気回復による伸びの鈍化により税収が減（△306億円）、県支出金の減（△60億円）になる一方、政令指定都市移行等による市債の増（266億円）、国庫支出金の増（179億円）を見込んでいます。
 - ・歳出では、同じく平成25年度までに政令指定都市移行による県債償還金等による補助費等の増（※196億円）、少子高齢化の進展等の影響による扶助費の増（43億円）や、普通建設事業費の減（△161億円）を見込んでいます。
- ※子育て応援特別手当4億円、定額給付金の106億円を含んでいます。

【収支不足解消にむけて】

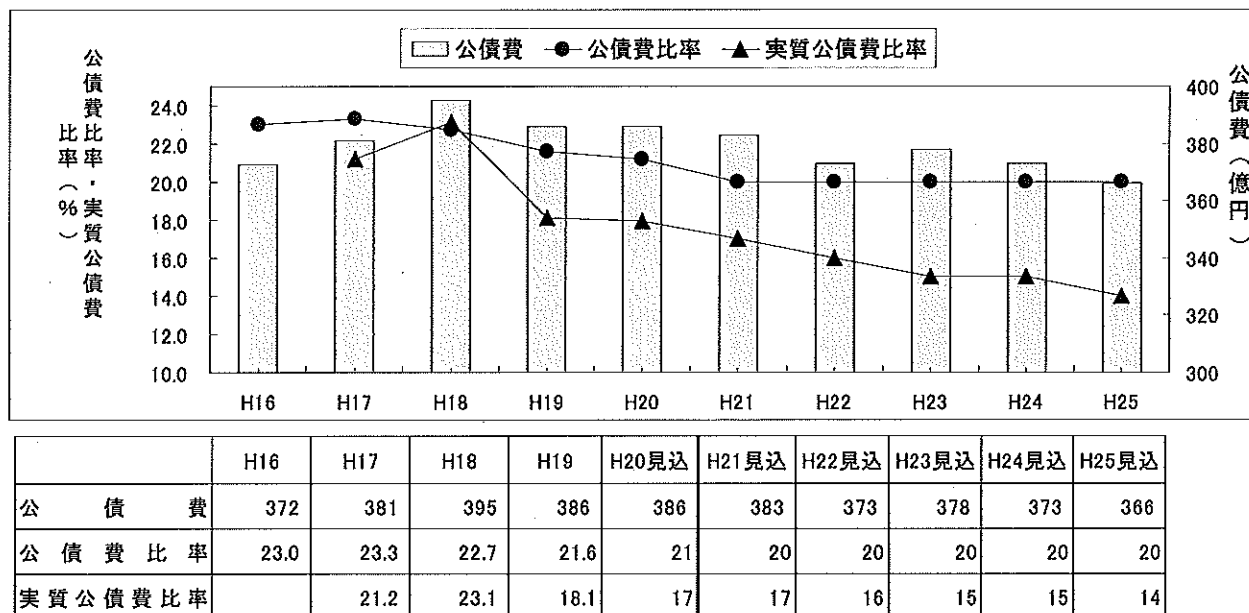
- ・今後5年間の収支不足の188億円については、今後も徹底した行財政改革に取り組んでいくことや、財源調整のための基金により収支を均衡させる必要があります。

(注) この試算では、現行制度をもとに算出しているため、今後の動向によっては、歳入・歳出が変更となる可能性があります。

(2) 今後の財政指標は改善傾向も依然厳しい状況

今後5年間の収支見通しと合わせて財政指標を算出すると、公債費比率は昨年の見通しと同様に、平成17年度をピークに改善傾向に転じるものと推計しています。また、実質公債費比率は平成19年度決算からの算定方法の変更により、大幅に改善し18.1%となり、今後もこれまでどおり通常債の発行を一定程度に抑制すれば減少する傾向にあると推計しています。

公債費、公債費比率、実質公債費比率の見込み



※H16は減税補てん債の借換え122億円、H18は御津スポーツパークの借換え11億円、
H19、H20は公的資金の補償金免除などの借換えをそれぞれ20億円、24億円除く。
※H20年度は中核市、H21年度から政令指定都市として試算

【公債費は高水準で推移】

- ・公債費は増加を続けてきましたが、市債残高が総額、通常分ともに減少しており、平成18年度の395億円がピークになると推計しています。
- ・しかし、平成16年度と平成18年度の合併による増加や、平成21年の全国都市緑化フェアの整備事業、市民の安全・安心を守る消防施設整備事業等の推進の影響もあって、今後もなお高水準で推移すると見込んでいます。

【公債費比率は改善傾向】

- ・公債費比率は平成17年度の23.3%をピークに改善傾向にあり、今後も通常債の新規発行額の抑制等により、改善していくと見込んでいます。

【実質公債費比率は改善するも依然高い水準】

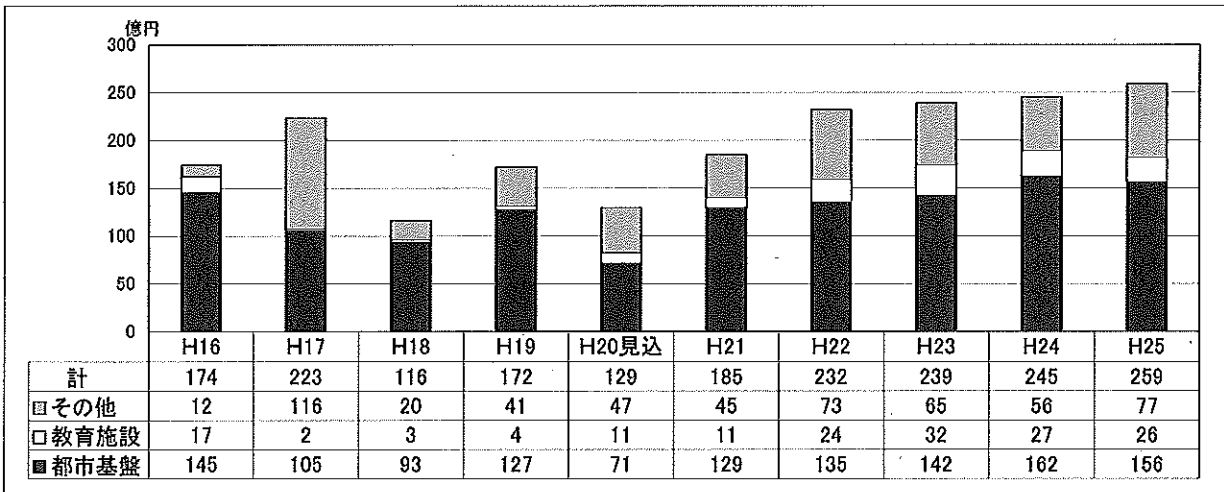
- ・実質公債費比率は平成19年度決算から都市計画税充当などの算定方法の変更により、18.1%と大幅に改善していますが、依然として起債に当たり許可が必要となる水準の18%を超えています。
- ・今後は建設事業の重点化や進捗調整、公的資金の補償金免除繰上償還の実施により、公債費の軽減を図ることで改善傾向になり、平成25年度には14%程度まで改善すると見込んでいます。

(3) 大規模事業の事業費は増加

《 新市建設計画事業、新市基本計画事業等を着実に推進 》

【大規模事業費は増加傾向】

- ・岡山市では、多くの大規模な事業が見込まれています。
- ・収支見通しの改定に当たって、今後5年間(平成21～25年度)に予測される概ね10億円以上の大規模事業費を合計したところ1,160億円となります。



【新市建設計画事業、新市基本計画事業等を着実に推進】

- ・合併に伴う新市建設計画事業、新市基本計画事業の着実な推進、並びに、市民の安全・安心を守る消防施設整備等の重点事業を着実に推進していくこととしています。
- ・大規模事業費は、(仮称)西大寺南ふれあい公園整備事業や岡山駅前周辺整備事業等が事業の進捗により減少していますが、政令指定都市移行に伴う国県道に係る道路新設改良事業費等の増により全体の事業費は増加すると見込んでいます。
- ・その一方で、平成21～25年度は、大幅な財源不足が見込まれており、引き続き、事業の選択と集中を図り、また、平準化や延伸などの進捗調整を行うことが必要です。

主な大規模事業

| | |
|------|---|
| 都市基盤 | 岡山駅交通結節点改善事業、土地区画整理事業(大供周辺地区)、灘崎町総合公園整備事業、広域河川改修事業(倉安川)、道路整備事業(下中野平井線(旭川工区)、藤田浦安南町線ほか)等 |
| 教育施設 | 中高一貫校(後楽館)校舎建設事業、大廻小廻山城跡整備事業等 |
| その他 | 消防署・出張所の適正配置、国営かんがい排水事業負担金等 |